

## メキシコ金融政策(2018年12月)

～メキシコ銀行は11月に引き続き0.25%ポイントの利上げを実施～

2018年12月21日

### お伝えしたいポイント

- ・メキシコ銀行は0.25%ポイントの利上げを実施
- ・新大統領の政策には注意が必要だが、米国の利上げ打ち止め観測は追い風に

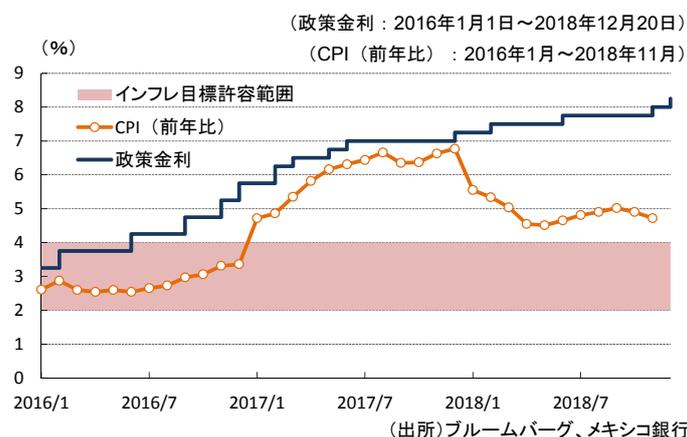
### <メキシコ銀行は0.25%ポイントの利上げを実施>

メキシコ銀行(中央銀行)は12月20日(現地)、政策金利を市場予想通り0.25%ポイント引き上げ、8.25%とすることを決定しました。利上げは11月にも行われており、2会合連続の実施となります。メキシコ銀行は、インフレリスクが引き続き懸念されていることを利上げの理由として挙げています。実際に、インフレ率は目標を上回る推移が続いています。また、米国ではFRB(米国連邦準備制度理事会)が利上げを実施しており、今回の利上げはFRBに追随する意味合いもあったと考えられます。

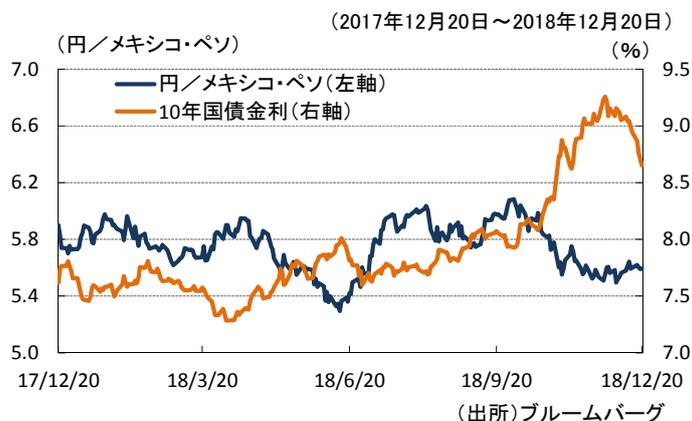
今後の金融政策については、インフレや通貨の動向次第ではあるものの、必要であるならば追加利上げを行うとしています。

足元では、メキシコ・ペソは対円で下げ止まっています。12月に就任したオブラドール大統領は、新空港の建設を中止するなど、大衆迎合的な政策を推し進めたことから、市場の懸念が高まっていました。しかし、先日発表された2019年度予算案は基礎的財政収支(プライマリーバランス)黒字を達成できる見込みで、財政悪化への懸念はひとまず後退した格好です。

### 《政策金利と消費者物価指数(CPI)の推移》



### 《為替と国債金利の推移》



※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## <新大統領の政策には注意が必要だが、米国の利上げ打ち止め観測は追い風に>

当面のメキシコ・ペソはオブラドール大統領の政策動向に左右されやすい展開になりそうです。2019年度の予算案は財政の健全性に配慮したものとなりました。しかし、オブラドール大統領が大衆迎合的な政策を今後も続ければ、これまでペニャニエト前大統領が推し進めてきた構造改革に逆行するとともに、財政赤字の拡大や格付け会社による格下げを招く可能性があることから、その動向を注意深く観察する必要があると考えています。

一方で、米国の利上げ打ち止め観測はメキシコを含む新興国市場の追い風になりそうです。2015年以降、米国では断続的に利上げが実施されてきたものの、足元のFRB高官の発言からは中立金利を上回るまでの積極的な利上げ姿勢は見られません。2019年に入り、米国の利上げ打ち止めが視野に入ってくると、メキシコを含む新興国市場への資金流入が期待されます。

以上

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>